



# 現場で大活躍！ ガンシンテックの重機・工法 を紹介します！

Vol.9  
12月号



課長 須賀 一男さん  
係長 小田島 真さん

現場で活躍する様々な重機。今回はガンシンテックが扱う4つの機械・重機と特殊な工法を紹介します！特徴やアピールポイントを須賀さんと小田島さんに伺いました！

## あと施工アンカーとは？

主に改修工事、耐震補強工事などで使われ、金属製アンカー、接着材系アンカーなどがあります。新築工事では使えませんが、用途に応じて、様々な改修工事現場などで活用されています。

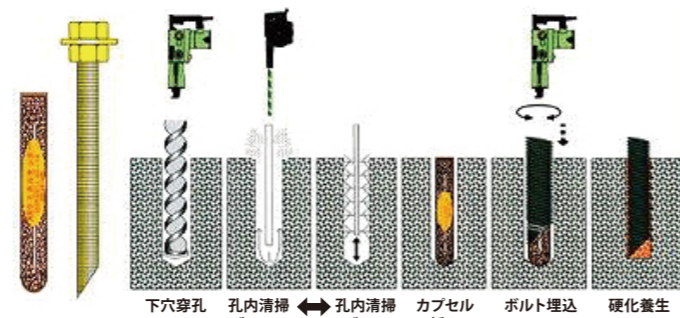
### POINT

アンカー工事の際、第1種あと施工アンカー施工士の認定資格を取得していないと施工してはいけない現場が増えてきました。そのためアンカー工事に携わる社員は、資格を取得して頑張っています。建設現場では不可欠な仕事の一部なので、専門業者としての確かな施工をすることで、他の業者との差別化を図っていければと思います。

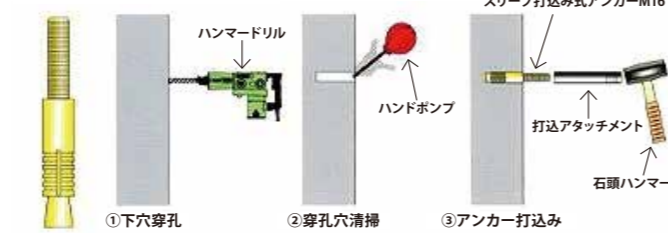


各種アンカーの施工手順を示します。

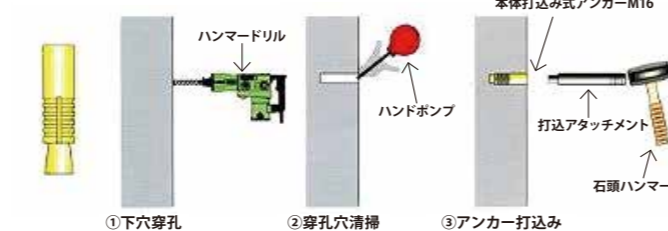
### ①ケミカルアンカー施工手順



### ②スリーブ打込み式施工手順



### ③本体打込み式施工手順



## コアドリルってどんな機械？

建設現場から一般の家まで、コンクリート構造物への穿孔工事（穴あけ工事）、設備関係、土木、建築工事など、様々な穴あけ工事で使用されています。口径14.5～600ミリまでの穿孔工事に対応していますが、口径600ミリ以上の穿孔工事には、連続穿孔で口径3000ミリでも開口できます。

### POINT

ダイヤモンドコア穿孔は、道路カッターとともに、日常的に依頼が多い仕事です。ケミカルアンカー打設工事、コンクリート構造物への研り工事など、同時にいくつもの仕事を受けることができ、また、電気工事、設備工事など幅広く仕事を行うことができます！

## 道路カッターってどんな機械？



インフラ整備などで、アスファルト舗装版切断、コンクリート版切断を行う際に使用します。湿式切断、乾式切断の2つの方法があり、湿式は、アスファルト舗装版切断、コンクリート版切断に使用します。切断深さは、50センチまで対応できます。乾式カッターは、主にコンクリート目地に使用しています。切断面が仕上げになりますので、かなりの技術が必要になります。

### POINT

カッター工事はカッター部門のメインの仕事で、インフラ整備（特に道路工事）には、必要な作業の一部です。道路カッターの仕事は、その後の仕事（コア穿孔工事、研り工事）などに繋がっていくので会社としてもとても大切な仕事です。

## バックホウってどんな重機？

土砂の掘削、トラックへの積み込み、荒地の整地、法面の整形作業、また、アタッチメントを付け替えての解体作業などを行います。

### POINT

バックホウとは、back（後部）とhoe（鋤）が合わさった英語の“back hoe”がその名前の由来になっており、ショベル部分がオペレーター側を向いていることから、地面より低い場所の掘削に適しています。各種工事に使用でき、使用頻度も高いです。



## ブルドーザーってどんな重機？

土砂の掘削、押土、ならし、締め固めなどの作業に使われます。

### POINT

トラクターの前面にブレードを備え、ブレードの先端に機体の重量をかけることで土砂を掘削、車体を前進させてその土砂を運びます。本来、土木工事といえばブルドーザーというイメージがありますが、最近では工事で使用することも少なく、貴重な存在です。自社保有している会社もあまりないので、ブルドーザーを必要とするお客様からのお声がかかりやすいです。



## ケコム工法とは？

ケコム工法とは、下水道工事の立坑構築工法で、専用の機械を使用し鋼製ケーシング（円筒）を地中に揺動しながら圧入し、内部の土砂を掘削して立坑を構築する工法です。立坑内での人為作業が少ないため、安全管理が容易であり、ケーシングの圧入、引き抜きを油圧シリンダーにより操作するので無振動、低騒音で施工可能です。

### POINT

全国で19社の正会員が加入するケコム協会が本工法の全国展開を図っており、非常に特殊な機械を使用する工法です。通常見かけることのない特殊な機械なので、皆さんの注目を集めることで会社の宣伝にもつながることができます！



ガンシンテック株式会社 取締役

# 田口 健一



株式会社ガンシン 顧問

# 俵 修史

株式会社ガンシンの前身である岩国港湾運送株式会社が設立されたのは、1948年（昭和23年）、今からおよそ70年前のことでした。今回はガンシンの歴史と共に歩んでこられた株式会社ガンシン顧問の俵修史さんと、ガンシンテック株式会社の取締役をされている田口健一さんのお二人に、設立70周年を記念して往年の会社の様子や思い出深いエピソードについて語り合っていました。

長年にわたりガンシンを支えてこられたお二人にとって、印象に残っている出来事は何でしょうか。

俵

1984年（昭和59年）の株式会社池田工務所との合併ですね。当時、私は現場で働いていましたが、合併後に一気に受注量が多くなり、仕事が増えたのを感じています。新しい組織に慣れるのにも最初は苦労しました。そして最も変化を大きく感じたのは、やはり従業員数です。私が入社したころは、土木に携わる職員は5人でした。それが合併したことによって、職員が3倍以上に増えたのです。仕事も人も増え、会社の

発展を肌で感じることができました。

田口

私は1973年（昭和48年）、社名が岩国港湾運送株式会社から株式会社ガンシンへ変更された年に入社しました。在社40年間の思い出としては、会社の沿革にあるトピックス（社内報第2号掲載）の昭和48年以來が印象深く記憶に残っています。

中でも強く印象に残っていることは、社長号令の下でのISOの取得です。2002年（平成14年）のISO9001（品質マネジメントシステム）の取得に続いて、ISO14001（環境マネジメントシステム）、及びOHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）を取得しました。

当時、ISO推進室も兼務しており、ISO取得に向けての各マニュアルの解釈やその他従業員への指導、啓蒙まで様々な活動の一端を担っており、煩雑な状態を整理し、仕組化していく過程で、特に論理的な解釈が要求され、推進室のメンバーだけでなく、関係部署全体に受け入れてもらわなければならなかったのです。簡単な道のりではありませんでした。

が、この活動がきっかけとなって論理的な思考が社内に徐々に浸透してきたと思います。これはISO取得によって社員に身についた最大のメリットだと思っています。

俵

当時、田口さんとそれぞれの立場から、会社にとって何がベストなのか、議論を交わしたのを感じています。もちろんぶつかることもありました。お互いの信頼関係がベースにあり、いつも最終的にはしっかりとまとまるんですね。

田口

そうですね。普段からお互いコミュニケーションをしっかりと取っていました。想いを一つにして同じベクトルで進むには、常日ごろのコミュニケーションが大切ですね。

ありがとうございます。それでは、ガンシンの今と昔をすべての感想について教えてください。

俵

私が入社したころのガンシンは、岩国港に荷卸しされた原木の筏組み、及び原木を取り扱う商社からの依頼による陸上運搬、筏曳

航作業等が頻繁におこなわれていたの覚えています。そのころから比べると事業の幅も広がりまし、会社の規模も大きくなったと実感します。岩国港も今とは比べ物にならないくらい小さな港でした。岩国港の発展の一端として、マリコンの協力会社として当社は岩国港の岸壁築造工事に携わりました。今は老朽化が進んでいるとはいえ、岩国港にクルーズ船が停泊するまで発展したことは感慨深いものです。



田口

懐かしいですね。俵さんの話にもありましたが、港湾運送事業（「船内荷役」、「沿岸荷役」、「いかだ運送事業」及びそれに伴う関連事業）又「内航海運業」、「般貨

それでは最後に、社員の方へのメッセージをお願いします。

俵

人を思いやる心を皆で共有し、事業発展に努めてほしいと思っています。

田口

そうですね、当社には70年の歴史を基盤にした様々な可能性がまだまだあると思います。目的を明確にして、まだこれから前進するんだという気概を大切に、更なる発展を期待します。

ガンシン、そして岩国港の発展を支えてきた俵さんと田口さん。お二人の想いは、ガンシンの新たな歴史を築く原動力として、後輩たちに受け継がれていくに違いないと思います。

## 企業情報

- ◆ 設立年：昭和23年10月
  - ◆ 年商：20億円
  - ◆ 従業員数：90名
- （※平成30年12月時点）

